



## 薫風(くんぷう)の候

5月の時候の言葉である「薫風」とは「初夏の若葉や青葉の香りを含んだ穏やかな風」のことをいうそうです。正に「言い得て妙」です。

今年も4月下旬から5月上旬にかけて好天が続き、屋外を歩くと何とも言えない爽やかな風が吹いてきました。咲き誇る花々の香りも香ってくるような気がしました。ご存知のように鴛野小学校の東から南にかけて小高い山があり、若葉が目眩しいほどの輝いています。これが杉や檜などの人工林だったら、ここまでの爽やかな感じは抱かないでしょう。早く子どもたちにこの光り輝く若葉を見せてあげたいものです。



## ペーパーチャレランの有効性

鴛野小の先生方に2回に渡って配ってもらった課題プリント。その中にそっと紛れ込ませておいた「校長先生からの挑戦状」はいかがでしたでしょうか。

この2枚はペーパーチャレランと呼ばれる学習ゲームです。ペーパーチャレランはチャレンジランキング(学校現場や青少年地域活動などで児童生徒らが何かにチャレンジした結果を記録し、そのランキングを競う活動。略称チャレラン。…ウィキペディアより)のひとつです。作者は日本子どもチャレンジランキング連盟の伊藤亮介さん。

ペーパーチャレランは私が教職について以来購読を続けていた教育誌にずっと連載されてきました。熱中して取り組む担任学級の子どもの姿が印象に残っています。

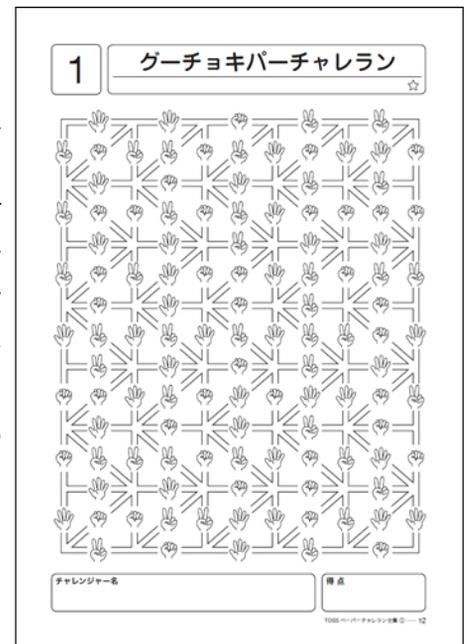
そんなペーパーチャレランに対する認識を新たにしたのは2008年でした。なんと統合失調症の症状改善への有効性が証明されたというのです。2007年2月に開かれた「第三回統合失調症研究会」において慶応大学医学部の発表「統合失調症におけるペーパーチャレラン訓練の有効性」が最優秀賞に選ばれたというのです。

このことからペーパーチャレランが楽しく面白いだけでなく、特性を持つ子どもたちも含めて多くの子どもたちに効果があるということがわかります。

また「校長先生からの挑戦状」として子どもたちにペーパーチャレランを出せる機会があればと思っ

ています。なお、ペーパーチャレランをまとめた本が何冊も出版されていますのでネットで検索してみてもよいかと思えます。

\* 右は第1回で配ったグーチョキパーチャレラン。



# 今、世界が注目！非認知能力

学校だより『鴛野小通信』の紙面を利用して家庭教育や家庭学習に役立つ情報を提供をしていきたいと思ひます。

第1回は「非認知能力」(ひにんちのうりよく)です。人の能力は「認知能力」と「非認知能力」に分けられます。そして

今、注目されているのが「非認知能力」の大切さなので、まずは下の図をご覧ください。

## 【認知能力】

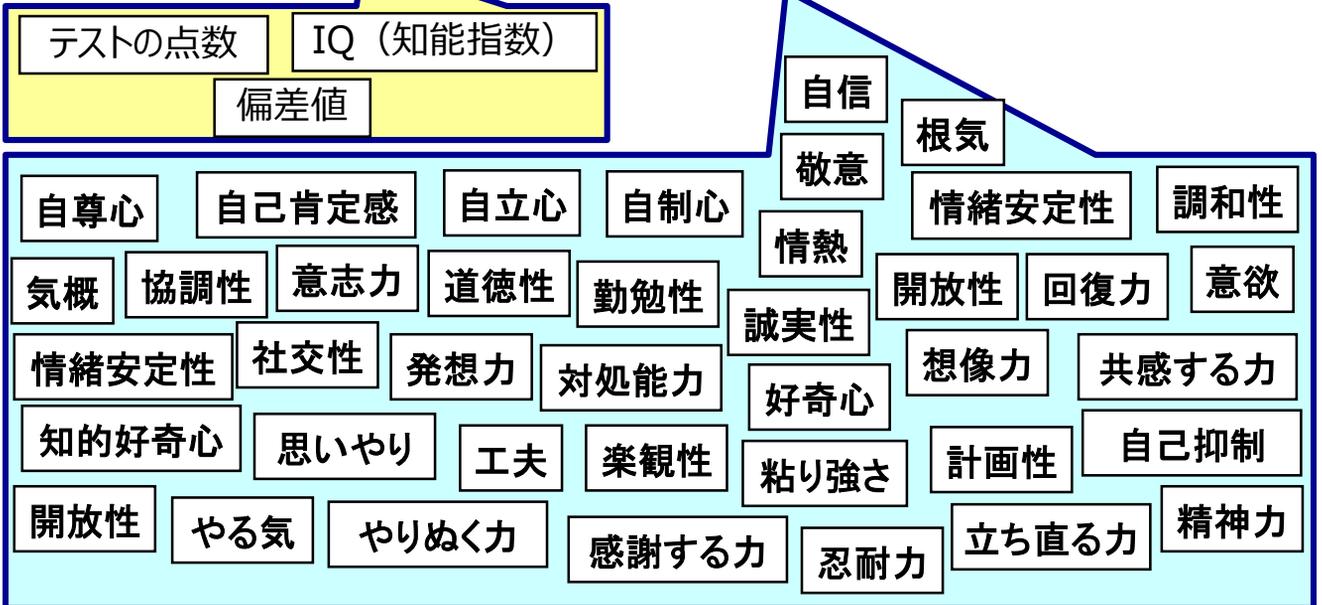
にんちのうりよく

計測して数値で表すことができる能力

## 【非認知能力】

ひにんちのうりよく

人間の気質や性格的な特徴のようなもの



非認知能力は、どれも大切です。

中でも科学的な研究で、「**学力・年収・雇用などの面で、子どもの人生に良い影響を与える**」ことが明らかになっている非認知能力が二つあります。

## がまんする力・やり抜く力

「がまんする力(自制心)」の大切さは「マシュマロ実験」(1970年:ウォルター・ミッチェル教授:スタンフォード大学)で明らかになりました。186人の4歳児に対しマシュマロを使って自制心を計測。この実験において「自制心あり」とされた子どもは1988年、2011年の追跡調査によって学力、収入、健康状態等がおしなべてよかったことが判明したのです。(「結果は限定的」とする実験結果もある。)

「やり抜く力」の大切さは、ペンシルバニア大学の心理学者であるアンジェラ・ダックワース准教授が発表しました。「GRIT(グリット)」ともいわれる「やり抜く力」を「**非常に遠い先にあるゴールに向けて、興味を失わず、努力し続けることができる気質**」と定義しています。また、才能とやり抜く力の間には相関関係がないことも明らかにしています。

私たちはややもするとテストなどの目に見える能力に一喜一憂してしまいがちですが、目に見えない非認知能力の大切さを忘れてはいけません。

それでは「がまんする力」「やり抜く力」を育てるにはどうすればよいのか?これは、今後の「鴛野小通信」で。

